

「平和を守れ、くらしを守れ」の演説原稿例

2022年5月12日

埼玉県委員会

みなさん、こちらは日本共産党・梅村さえご事務所です。来月おこなわれる参議院選挙にむけての私たち日本共産党の政策などをお話しさせていただきます。よろしくお願いします。

参院選は、平和とくらしがかかった大事な選挙です。私たち日本共産党は「自由と平和。まっすぐ、つらぬく」党として、くらしのSOSに応える党として、平和とくらしを守りぬくために奮闘する決意です。

ロシアによるウクライナ侵略が始まってから3カ月となります。たくさん尊い命が奪われています。本当に許せません。ウクライナへの支援募金も引き続きおこなっていますのでご協力をお願いします。この戦争を終わらせるために、世界の多くの国々が「国連憲章にもとづく平和秩序」で大同団結していくことが大切です。私たち日本共産党は、この立場で世論をつくりあげるために全力をあげます。この問題で「ロシアは共産党ではないのか」とおっしゃる方もいますがとんでもない誤解です。先日、日本共産党の志位委員長がロシア政府から入国禁止の対象にされたようにロシアと日本共産党はまったく違います。むしろ、旧ソ連の頃から、覇権主義を厳しく批判してきたのが日本共産党です。このことをまず申し上げます。

今回のウクライナ危機を通じて、日本の安全保障をどうつくりだすかが大きなテーマになっています。岸田政権は危機に乗じて「敵基地攻撃能力の保有」や憲法9条改定などをすすめ、大軍拡の道に踏み出そうとしています。「9条では平和は守れないのでは」との声もありますが、本当にそうでしょうか。大事なことは、「戦争が起これたらどうするか」ではなく、「戦争させないためにどうするか」ということです。東南アジアの平和の地域共同体に学んで、9条をいかした外交で東アジアに平和をつくりだす外交努力が何より大切です。岸田政権には外交の戦略が一つもない。あるのは軍事対軍事の考え方のみです。これが一番の問題です。私たち日本共産党は、このような「戦争する国づくり」ではなく、安全保障の中心に外交をすえてこそ平和をつくれると考えています。私たちはこういった「外交ビジョン」を持っています。それを実現していくためにぜひ今度の参院選で日本共産党を大きく伸ばしてください。また、この機会に安保条約や自衛隊など、日本共産党の綱領をわかりやすく解説したリーフをご覧ください。

みなさん、ロシアが核兵器の使用をほめかすもどで、「核共有」などの物騒なことを言い出す維新の会などがいます。みなさん、核戦争に勝者はいません。77年前、ヒロシマ、ナガサキでの原爆の惨禍から、核兵器の存在がいかに人類の生存にかかわるかを多くの国民が知っています。いまこそ核兵器をなくすこと、核兵器禁止条約への参加に日本が踏み出すべきです。私たち日本共産党は「核兵器のない世界」をつくりだすために引き続き頑張ります。

みなさん、くらしと経済の問題ではどうでしょうか。いま、値上げ、値上げの連続で国民のくらしは大変な状況です。コロナの前から、自公政権による相次ぐ消費税の増税、社会保障の切り捨て、使い捨て雇用の広がり、国民のくらしは痛めつけられてきました。そこに今回の物価の高騰です。みなさん、くらしの苦しさは自己責任ではありません。格差と貧困を広げ、アベノミクスのもとでの異次元の金融緩和による異常円安をつくりだした政治の責任です。いま必要なことはこれまでの財界ばかり応援する政治を抜本的に改めることではないでしょうか。私たち日本共産党は、「やさしく強い経済」の対案をもっています。使い捨て雇用を改め、賃上げすること、そして社会保障を立て直すこと。ここに日本経済の再生のカギがあります。労働者にも、高齢者にもやさしい国をつくろうという提案。それがまわりまわって強い経済になります。ぜひこの対案を実現させるために参院選で日本共産党を大きくしてください。

参院選では、平和の問題でも、くらしと経済の問題でも、岸田政権と正面から対決をして、対案をかかげている日本共産党が伸びるかどうかが決定的に重要です。日本共産党の躍進は、希望ある政治をつくるための大きな力となります。ぜひみなさんのご支援をお願いします。

最後になりますが、日本共産党が発行する「しんぶん赤旗」は新しい政治への希望がわく新聞です。ぜひこの機会に「しんぶん赤旗」に触れていただくことをお願いして、この場所をお借りしての日本共産党・梅村さえご事務所からの訴えを終わらせていただきます。ありがとうございました。